



<全国学力・学習状況調査の結果について>

2019年4月に、今年度の全国学力・学習状況調査が行われ、先日、いわき市教育委員会から市の概要について公表されました。これを踏まえ、小川中学校の概要についてお知らせします。

なお、対象学年は3年生で、実施教科は、今年度は国語・数学・英語の3教科です。

1 正答率について

教科	本校	市	県	全国	全国比
国語	73.0	72.0	72.0	72.8	+0.2
数学	54.0	56.0	57.0	59.8	-5.8
英語	48.0	52.0	53.0	56.0	-8.0

○国語は、正答率が73%と高く、また、市・県・全国平均とほぼ同じ水準である。
●数学と英語については、市・県・全国平均より低く、特に英語は、正答率が50%を切っている。

2 国語について

①領域別（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）の状況

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」は市・県・全国平均よりも高く、特に「書くこと」は正答率が86.3%と最も高く、全国平均よりも+3.7である。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は市・県平均よりも高く、全国平均とほぼ同じ水準である。
- 「読むこと」は、市・県・全国平均よりも低く、全国平均よりも-2.9である。

②評価の観点（国語への関心・意欲・態度、話す・聞く能力、書く能力、読む能力、言語についての知識・理解・技能）の状況

- 「話すこと・聞く能力」「書く能力」は市・県・全国平均よりも高く、特に「書く能力」は正答率が86.3%と最も高く、全国平均よりも+3.7である。
- 「国語への関心・意欲・態度」「言語についての知識・理解・技能」は、市・県・全国平均とほぼ同じ水準である。
- 「読む能力」は、市・県・全国平均よりも低く、全国平均よりも-2.9である。

③国語に関する生徒質問紙の状況

- 「国語の勉強は大切だ」「授業で学習したことは将来役に立つ」と考えている生徒は88.2%で、全国平均とほぼ同じ水準である。
- △「授業の内容はよく分かる」と答えた生徒は60.7%で、全国平均と比べ-16.9である。
- 「授業で自分の考えを話したり書いたりしている」「話したり書いたりするとき根拠を示したり、話や文章の組立てを工夫している」「文章や資料を読むとき、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読む」は、全国平均より8~10低い。

④結果を踏まえた取組について

- ☆国語科では、新出漢字等の定着を図るために、漢字ドリルを活用した学習を定期的に行ってきた。今後も継続して取り組む。
- ☆何を学ぶかをより分かりやすく提示したり、何を学んだかを自分の言葉で書かせたりするなど、「分かる授業」の実践に努める。
- ☆読み取った内容や自分の考えなどを、書いたり発表したりする場면을計画的に設定する。
- ☆「読む能力」を高めるために、文章を読んだり、読み取ったことを要約したりする場면을計画的に設定する。また、文章の読み取り方の指導も合わせて行う。

3 数学について

①領域別（数と式、図形、関数、資料の活用）の状況

- すべての領域において、市・県・全国平均より低い水準である。特に「関数」については、全国平均より-10.7である。

②評価の観点（数学的な見方・考え方、数学的な技能、数量や図形などについての知識・理解）の状況

- 3つの観点において、市・県・全国平均より低い水準である。特に「数学的な技能」については、全国平均より-10.3である。

③数学に関する生徒質問紙の状況

- 「数学の勉強は大切だ」と考えている生徒は82.4%で、全国平均とほぼ同じ水準である。
- △「授業の内容はよく分かる」と答えた生徒は60.8%で、全国平均と比べ-13.1である。
- △「数学の授業で学習したことは将来役に立つ」と考えている生徒は64.7%であるが、全国平均と比べると-11.5である。
- 解答を言葉や数、式を使って説明する問題で、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えた生徒が49.0%で、全国平均と比べると-11.8である。

④結果を踏まえた取組について

- ☆今回調査された3つの観点全てが全国平均より低いことから、1・2年生の学習内容の理解と定着が不十分であることが分かる。特に「連立二元一次方程式」「確率」「比例と反比例」「一次関数」「三角形の合同条件」などについて、再指導の場を設ける。
- ☆丁寧で分かりやすい説明を心がけたり、具体物を活用したりするなど「分かる授業」の実践に努める。
- ☆授業で学習した内容を活用して物事を考え、それを数学的に説明する場面を計画的に設定する。
- ☆数学的な技能を高めるために、作図や量の測定などの作業的な活動を計画的に設定する。

4 英語について

①領域別（聞くこと、読むこと、書くこと）の状況

- 3つの領域において、市・県・全国平均より低い水準である。特に「書くこと」については、全国平均より-12.0である。

②評価の観点（外国語表現の能力、外国語理解の能力、言語や文化についての知識・理解）の状況

- 3つの観点において、市・県・全国平均より低い水準である。特に「言語や文化についての知識・理解」については、全国平均より-9.0である。

③英語に関する生徒質問紙の状況

- ◎「英語を聞いて概要や要点をとらえる活動」「英語を読んで概要や要点をとらえる活動」が行われていたと答えた生徒が、それぞれ88.3%、92.2%で、全国平均より+9.1、+11.0である。
- ◎聞いたり読んだりしたことについて、「生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動」や「その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動」が行われていたと答えた生徒は、それぞれ86.3%、80.4%で、全国平均より+8.9、+5.8である。
- 「英語の勉強は大切だ」「英語の授業で学習したことは将来役に立つ」と考えている生徒はそれぞれ、84.4%、86.3%で、全国平均とほぼ同じ水準である。
- 「(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動」「自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動」が行われていたと答えた生徒は、それぞれ62.7%、78.4%で、全国平均とほぼ同じ水準である。
- △「授業の内容はよく分かる」と答えた生徒は60.7%で、全国平均と比べ-5.3である。
- 「スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動」が行われていたと答えた生徒が64.7%で、全国平均と比べると-12.5である。

④結果を踏まえた取組について

- ☆英語学習への興味・関心を高めるために、英語を聞く・読む活動や英語を使って会話したり考えを述べたりする活動を積極的に取り入れてきた。今後も継続して実施していく。
- ☆今回調査された3つの観点が全国平均より低いことから、1・2年生の学習内容の理解と定着が不十分であることが分かる。特に「正確に聞き取る」「まとまりのある英語を聞いて話の概要を理解する」「文章を読んで話のあらすじを理解する」ことなどについて、再指導の場を設ける。
- ☆丁寧で分かりやすい説明を心がけたり、生徒の生活場面でのできごとを活用したりするなど「分かる授業」の実践に努める。
- ☆「書く活動」について、「正確に書くこと」への指導とともに、「まとまった文章で書く」などの場面を計画的に設定する。
- ☆語彙力の定着のために、「繰り返し書くこと」を授業以外でも行えるようにする。

生徒たちは現在、間近に迫った期末テストに向けて学習に励んでいます。3年生については受験本番期を迎え、12月からは私立高校の推薦入試に挑戦する生徒もいます。今回の本校の結果を踏まえて、授業の在り方を振り返って授業改善に努めるとともに、定着が不十分な内容については再指導を行うなど、改善に努めて参ります。